

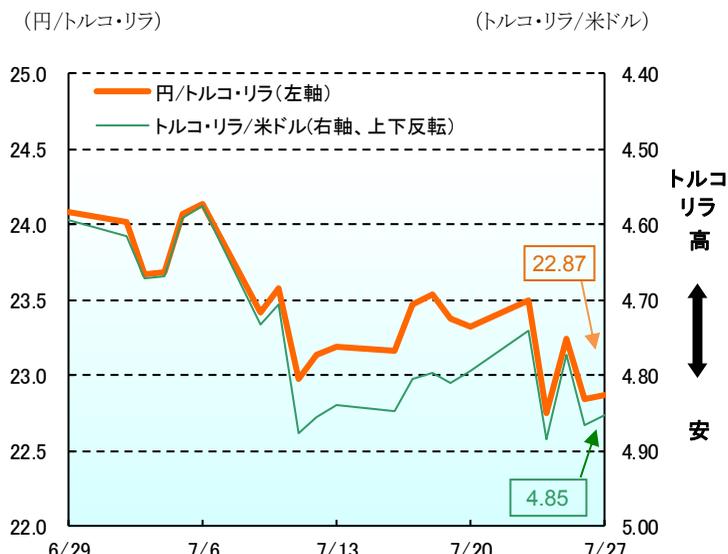
### 【2018年7月21日～2018年7月27日までの推移】

#### 【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに下落しました。トルコの2年国債金利はほぼ横ばいとなりました。

7月24日（現地、以下同様）の金融政策決定会合では、1.00%ポイントの利上げとの市場予想に反して、政策金利が17.75%で据え置かれました。市場は失望し、トルコ・リラは売られ、対米ドル・対円ともに史上最高値を更新しました。国債も政策決定を受けて長期債を中心に売られ、金利が上昇する場面もありましたが、その後は小動きで一進一退となりました。トルコ中央銀行は声明文で、インフレ圧力に言及しつつも、国内の需要が減速していると指摘し、様子見姿勢を示しました。

【トルコ・リラ 為替推移】（2018年6月29日～2018年7月27日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

#### 【2】今週の見通し

24日の金融政策決定会合は、改めて中央銀行に対する政治の圧力への市場の疑念が高まる結果となりました。また、トルコによる米国人牧師の拘束をめぐって、トランプ米大統領が「大規模な制裁をかける」とツイッターで警告するなど、対米関係も懸念されており、相場の重石となっています。今週はトルコ中央銀行のインフレ報告書の公表と、6月の貿易収支および7月の消費者物価指数の発表が予定されています。しかし、日本や米国、ブラジル、メキシコ、インドなど複数の国で金融政策決定会合が開催されるため、市場のトルコに対する注目度は相対的に低くなると考えます。

【トルコ 金利推移】（2018年6月29日～2018年7月27日）



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>